

道連ニュース

2018年4月号 No.141

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

第4回 こども食堂北海道ネットワーク交流会報告(2/21)

ブログ検索をしてみてください！ **こども食堂北海道ネットワーク**で

急速に拡大し増えてきた「子ども食堂」(全国的には2,000ヶ所とも云われています)が子ども達にとって運営者にとっても安全で安心して行かれる「居場所」として、地域や社会からも応援される存在となる様、北海道生協連は2017年6月にネットワーク作りを呼び掛け、学習と困ったの解決！を軸に情報や知恵の共有、共感を進めてきました。道内でも全域で100ヶ所を超える子ども食堂、地域食堂が生まれ、それぞれの思いを大切にして地域や事業者、個人の応援、資金の寄付、消費財の提供等、応援ネットワークに支えられながらボランティアスタッフの皆さんと共に奮闘しておられます。この活動の中で農協さんからはお米の提供が具体化出来たり、労金さんからは助成案内を頂いたり、道生協連のネットワークをはじめ、「こども食堂北海道ネットワーク」が様々な場面でその力を発揮できるようになってきております。個別の食堂も紹介しておりますので是非とも検索してみてください！

札幌市も「子ども食堂」への対応に向け調査活動！

札幌市内でも50ヶ所を超える子ども食堂、地域食堂があると云われておりますが、運営の実態把握と施策作りへ向け、アンケートを年末から1月にかけて行いました。今回は運営者、運営団体だけではなく地域状況を把握しておられる「児童委員」さんや「民生委員」さんへ向けても発信され、どちらも70%超す回収率となりました。地域や町内でのきめ細かい対応を願う、優しい心温まるご意見が沢山寄せられており、協同組合への益々の期待を感じるものがありました。

(市からの詳細報告は後日の予定)

私たちが参加している「こども食堂北海道ネットワーク」は現在約30の運営者、5行政、4事業者、他個人の皆さんにつながりながら交流を続けてきております。今後も沢山の協同組合をはじめ友好諸団体と手を携えながら支援の花を地域に咲かせていきたいと考えております。今後ともご協力と参画をお願い致します。

〔事務局 松本〕

網走四地区学校生活協同組合『第63回 通常総代会』

雪解けも進み穏やかな天気にも恵まれた3月8日(木)の総代会は、総代、理事、監事そして来賓の皆様のご出席を頂きました。年度末の御多忙にもかかわらず多くの方々のご理解とご協力にあらためて感謝申し上げます。

本年度の総代会は、選出総代100名中、出席総代36名と書面議決書合わせて合計90名となり総代会成立の報告後、議事に移りました。

事業報告の中では、自主供給高が5,440万円(前年比191.3%)、斡旋供給高が1億8,531万円(前年比107.6%)といずれも前年度を上回る報告をすることが出来ました。

その他の審議事項において子法人の決算概況や次年度の事業計画などが審議され全ての事項が承認されました。長引く景気低迷の影響による購買意欲の低下や児童生徒数の減少、学校数の減少、教職員の多忙化など学校生協を取り巻く環境は依然厳しさの一途を辿っています。これらの課題を受け止め将来展望を切り開

いていくためには、今まで以上に心を合わせ一体となって教職員の皆様との信頼関係を深めていかなければなりません。私たち学校生協は長期的視点に立って学校生協運動に参加しやすい体制づくりと事業内容の再構築、新しい分野への積極的な取り組みを進めていかなければなりません。網走四地区学校生活協同組合の特徴である学校訪問と対面販売を生かした商品提案、

現物PRなどによる営業力・企画力の強化により、多様化する組合員のニーズに答え継続的に魅力ある学校生協として前進しなければなりません。



～協同組合ネットいばらき勉強会が開催され、 先進事例に学びました～

3月1日(木)、ホテルポールスター札幌において、「協同組合間連携の先進事例」について、JA茨城中央会広報室山口次長と生協茨城県連古山専務をお招きし、多くの事を学びましたので、ご報告致します。

JA北海道高橋参事、労金山田部長・榎田副部长、学識経験者相内先生（小樽商大特認名誉教授）・久田先生（北海道大学客員教授・ジャーナリスト）、道連麻田会長・平専務・事務局吉田・松本・川原が参加し、熱のこもった勉強会となりました。

初めに古山専務と山口次長より、2013年に、国際協同組合年茨城県実行委員会と、茨城県協同組合間提携推進協議会の活動を継承してスタートし、今日、県内41の協同組合が会員となる組織に発展し、協同組合学習会に、茨城大学ボランティア講座、福島の子どもの保養プロジェクト、協働組合収穫祭、平和活動、ボランティア活動、食の安全・安心を伝える活動など、県内だけでなく全国から協同組合間協働の先進事例として評価される活動となって来ている事が報告されました。

意見交換の場では、古山専務より、自分たちは、自然に普通のことをやっているつもりでいるけど、注目を浴びて少し戸惑っている。共通の目標を一緒に進め

る、“相乗りだね”生協県連の事務所がJA会館の中にある。ネット全体の事務局は、中央会広報部が担っている。自組織のメリットは何か、あるのかという人は必ずいるが克服している。取り組みが進んだ背景として、3.11、原発事故で農業・漁業に大きな痛手があり、元気が無くなっていた。とにかく、緩やかに出来ることはやってみよう。協同組合間協働の環境整備が、協同組合の内外から整ってきていた。

JA高橋参事、道連との包括協定は、秋までには結びたい。思いが一致したところから始めればいい。今年JA大会（三年に一度の大会）があり、協同組合価値の再確認をしたい。相内先生、今日、新自由主義・グローバリズムの台頭で協同組合が“食いもの”にさらされている。協同組合の危機、協同組合の必要性の確認とみんなで力を合わせてやっていく事が大切では。川原、今後、過疎化が進む北海道の実態調査の把握、各組織の組合員のニーズ調査、JA・労金・生協が持っているインフラとシステムの棚卸などを進め課題を見つけていきたいとの報告があり、有意義な勉強会を終了しました。

〔道連事務局長 川原〕

3月1日(木)第17回福祉問題を考える委員会報告

子ども食堂北海道ネットワーク第4回学習交流会の報告のあと、恵庭市で多世代型の居場所づくりを実践されている「NPO 陽だまりの家」代表の古山（ふるやま）明美代表の報告と「NPO Kacotam」高橋代表の子ども若者支援者の養成プログラム（案）の問題提起を受け、議論を深めました。また、現在計画中的の新「NPO ここすけ」（こども・高齢者、助っ人センター）の紹介がありました。

こども食堂北海道ネットワークは、参加団体が札幌に49か所存在しているといわれているうちの食堂運営者24か所に、自治体は北海道、札幌市、小樽市。社会福祉協議会は江別市、千歳市、滝川市。事業者では、JA北海道中央会、北海道労働金庫、勤医協、コープさっぽろに参加していただいていること、トピックスでは、新篠津農協様より4月から「お米支援」がこども食堂北海道ネットワークの縁で開始されること、助成金活用に関し、北海道労働金庫様より運営者への案内、また、札幌市が実施した「こども食堂実態調査の中間まとめ」をうけ、札幌市のこども支援専任部署が設けられ対応されていくこと、交流では、全国の取り

組みの「保険負担費軽減のクラウドファンディング」が報告されました。

次に、古山代表より、社会福祉士として支援施設従事後、地域ニーズ対応型福祉を実現すべく大学院に入学し、独立型社会福祉事務所を運営しながら多世代対応型「陽だまりの家」の2年間の事業計画を恵庭市に提案し、まずは、市の生活学習支援事業の1つとして受託、（陽だまりくらぶ、陽だまり食堂（地域食堂）、陽だまり塾、陽だまりお助け隊（若者の就労支援としての有償ボランティア、地域（市営住宅）の見守り、高齢者の居場所としての陽だまりサロンとパワフルに実践している報告を受けました。（詳細はHPをご覧ください。<https://www.eniwahidamarinoie.com/>）

最後に、新「NPO ここすけ」（こども・高齢者、助っ人センター）の紹介では、協同組合間連携をベースにこども高齢者が抱える困難な課題を解決するサービスの実現をめざし、調査活動と資源の析出、人材育成、サービス内容、事業プログラム（ビジネスモデル）づくりを開始することが報告されました。